

ダイワ厳選 コモディティ・ファンド (ダイワ投資一任専用)

運用報告書(全体版) 第1期

(決算日 2022年6月15日)
(作成対象期間 2021年9月17日～2022年6月15日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（商品先物）		
信託期間	無期限（設定日：2021年 9月17日）		
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。		
主要投資 対 象	ベビーファンド	ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券	
	ダイワ厳選 コモディティ・マザーファンド	イ. 商品先物取引 ロ. 商品先渡取引 ハ. 商品価格への連動をめざすETF（上場投資信託証券） ニ. 商品価格への連動をめざすETN（上場投資証券） ホ. 米国国債	
組入制限	ベビーファンドの マザーファンド組入上限比率		無制限
	マザーファンドの 株式組入上限比率		
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。		

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することで、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
（営業日の9:00～17:00）
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

設定以来の運用実績

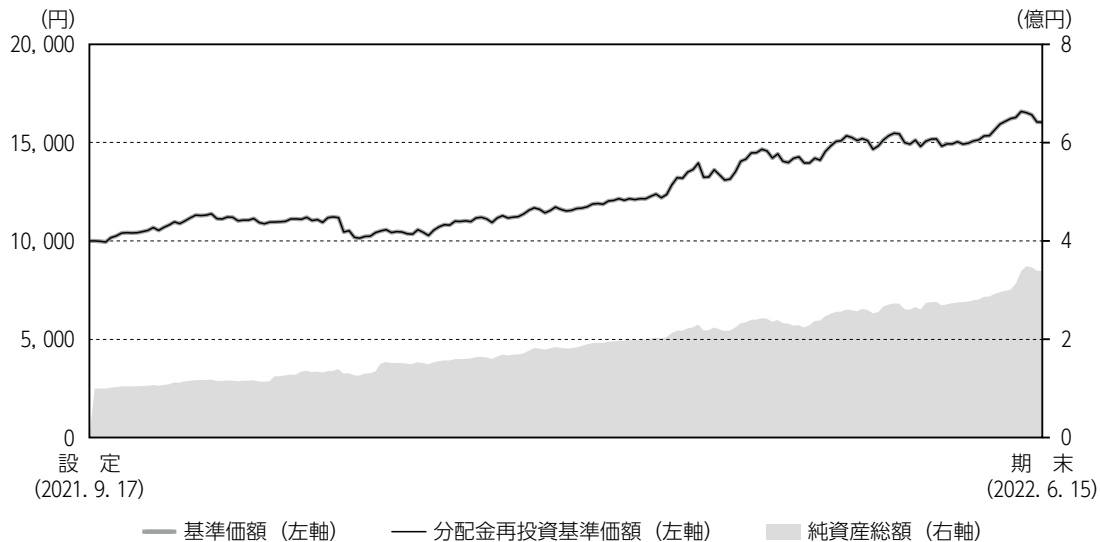
決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	投資信託 証 券 組入比率	商品先物 比 率	純 資 産 総 額
	(分 配 落)	税 込 分 配 金	期 中 騰 落 率					
1 期末（2022年 6 月15日）	円 16,038	円 0	% 60.4	% 59.4	% —	% —	% 101.1	百万円 339

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。
(注 2) 組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
(注 4) 先物比率は買建比率－売建比率です。
(注 5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期 末：16,038円（分配金 0 円）

騰落率：60.4%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド」の受益証券を通じて、商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行った結果、商品市況の上昇などを受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ厳選コモディティ・ファンド（ダイワ投資一任専用）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	商 品 先 物 比 率
		騰 落 率				
(期 首) 2021年 9月17日	円 10,000	% —	% —	% —	% —	% —
9 月末	10,405	4.1	96.8	—	—	102.9
10月末	11,056	10.6	88.5	—	—	99.8
11月末	10,525	5.3	78.2	—	—	101.4
12月末	11,026	10.3	64.7	—	—	100.4
2022年 1 月末	11,528	15.3	70.0	—	—	96.9
2 月末	12,198	22.0	63.0	—	—	97.2
3 月末	14,430	44.3	61.3	—	—	97.4
4 月末	15,143	51.4	57.8	—	—	94.9
5 月末	15,340	53.4	66.8	—	—	96.6
(期 末) 2022年 6月15日	16,038	60.4	59.4	—	—	101.1

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2021. 9. 17 ～ 2022. 6. 15）

商品市況

商品市況は上昇しました。

商品市況は、当作成期首から2021年10月にかけて、OPEC（石油輸出国機構）加盟国による協調減産縮小方針の維持、工業用金属や農産物の供給懸念から上昇したものの、その後は、南アフリカでのオミクロン株の発見および他地域での感染確認などを受けた経済活動の減速懸念から下落しました。しかし12月に入ると、オミクロン株の重症化リスクは低いとの見方から過度な警戒感が後退したことで商品市況も反発し、2022年1月以降もウクライナ情勢をめぐる緊張感の高まりなどから続伸しました。3月に入ると、米国および英国がロシア産原油の禁輸措置を発表したことなどからエネルギーセクターを中心に急騰したのち、OPECの増産観測などから上昇幅を縮小する値動きの荒い展開となりました。その後も、不調なロシア・ウクライナ間の停戦交渉や、欧州でのロシア産原油の禁輸措置の広がりなどにより、エネルギーセクターは上昇しました。そのほか、ウクライナが主要産地である小麦等の農産物は需給ひっ迫が懸念され、上昇率が顕著となりました。

為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首よりおおむねレンジ内での推移が続きましたが、米国の利上げ回数の増加観測などを受けて上昇しました。2022年に入ってから、レンジ内での推移が続いた後、3月にFRB（米国連邦準備制度理事会）が政策金利見通しを大幅に引き上げたのに対し、日銀は指値オペを行い長期金利上昇の抑制を図るなど、日米の金融政策の相違がより明確となって、円安米ドル高が大きく進行しました。4月に入ってから、米国金利が上昇したことなどから、米ドルはさらに上昇しました。

米国短期金融市況

米国の短期国債利回りはプラス圏で推移しました。

ポートフォリオについて

（2021. 9. 17 ～ 2022. 6. 15）

当ファンド

「ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド」の受益証券の組入比率を高位に維持しました。

ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド

主に商品先物取引に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、信託財産の成長を考慮し、収益分配を見送らせていただきました。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2021年 9月17日 ～2022年 6月15日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	6,037

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



今後の運用方針

■当ファンド

今後も、「ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド」の受益証券の組入比率を、通常の状態でも高
位に維持することを基本とします。

■ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド

引き続き、主に商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受する
ことをめざして運用を行います。

1 万口当りの費用の明細

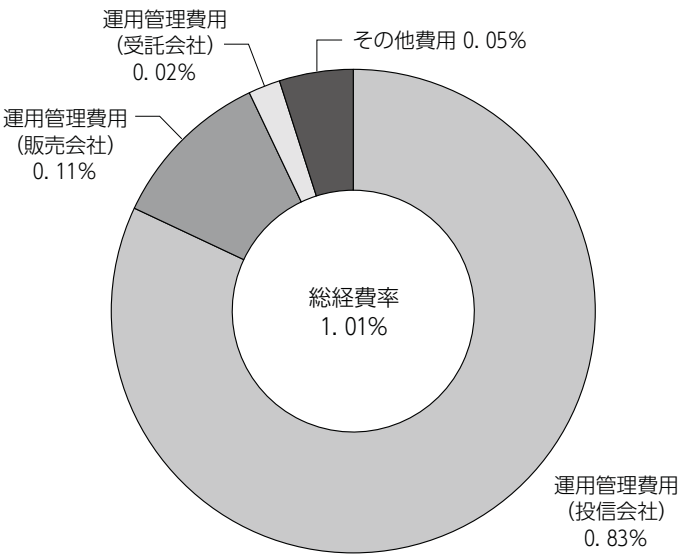
項 目	当 期 (2021. 9. 17～2022. 6. 15)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	89円	0.713%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は12,516円です。
（投 信 会 社）	(77)	(0.615)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(10)	(0.082)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(2)	(0.016)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	13	0.106	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(13)	(0.106)	
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	5	0.037	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(2)	(0.019)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(1)	(0.006)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(2)	(0.012)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	107	0.856	

- (注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
- (注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。
- (注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。
- (注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.01%です。



(注 1) 1 万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
(注 2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
(注 3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2021年9月17日から2022年6月15日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド	218,650	256,500	10,140	14,610

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■投信会社（自社）による当ファンドの設定・解約および保有状況

設 定 時 保 有 額	当作成期中 設 定 額	当作成期中 解 約 額	当作成期末 保 有 額	取 引 の 理 由
百万円 100	百万円 —	百万円 —	百万円 100	当初設定時における取得

(注1) 金額は元本ベース。
(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド	208,510	338,600

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年6月15日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド	338,600	99.7
コール・ローン等、その他	1,086	0.3
投資信託財産総額	339,687	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。
(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
なお、6月15日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=135.01円です。
(注3) ダイワ厳選コモディティ・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（338,419千円）の投資信託財産総額（349,719千円）に対する比率は、96.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年6月15日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	339,687,342円
コール・ローン等	1,086,888
ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド（評価額）	338,600,454
(B) 負債	634,800
未払信託報酬	629,419
その他未払費用	5,381
(C) 純資産総額（A－B）	339,052,542
元本	211,408,864
次期繰越損益金	127,643,678
(D) 受益権総口数	211,408,864口
1万口当り基準価額（C／D）	16,038円

* 期首における元本額は100,000,000円、当作成期間中における追加設定元本額は123,332,404円、同解約元本額は11,923,540円です。
* 当期末の計算口数当りの純資産額は16,038円です。

■損益の状況

当期 自2021年9月17日 至2022年6月15日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 97円
受取利息	6
支払利息	△ 103
(B) 有価証券売買損益	92,287,842
売買益	96,672,830
売買損	△ 4,384,988
(C) 信託報酬等	△ 1,358,356
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	90,929,389
(E) 追加信託差損益金	36,714,289
（配当等相当額）	（△ 55）
（売買損益相当額）	（ 36,714,344）
(F) 合計（D＋E）	127,643,678
次期繰越損益金（F）	127,643,678
追加信託差損益金	36,714,289
（配当等相当額）	（△ 55）
（売買損益相当額）	（ 36,714,344）
分配準備積立金	90,929,486
繰越損益金	△ 97

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。
(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	90,929,486
(c) 収益調整金	36,714,344
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	127,643,830
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	127,643,830
(h) 受益権総口数	211,408,864口

ダイワ厳選コモディティ・マザーファンド

運用報告書 第1期（決算日 2022年6月15日）

（作成対象期間 2021年9月17日～2022年6月15日）

ダイワ厳選コモディティ・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

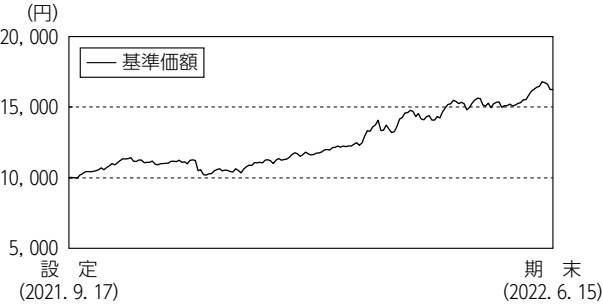
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	イ. 商品先物取引 ロ. 商品先渡取引 ハ. 商品価格への連動をめざすETF（上場投資信託証券） ニ. 商品価格への連動をめざすETN（上場投資証券） ホ. 米国国債
株式組入制限	無制限

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	投資信託 証 券 組入比率	商品先物 比 率
	円	騰 落 率				
(期首) 2021年9月17日	10,000	—	—	—	—	—
9月末	10,411	4.1	97.2	—	—	103.4
10月末	11,078	10.8	88.6	—	—	99.9
11月末	10,554	5.5	78.2	—	—	101.5
12月末	11,080	10.8	64.6	—	—	100.3
2022年1月末	11,602	16.0	69.9	—	—	96.9
2月末	12,284	22.8	62.9	—	—	97.2
3月末	14,540	45.4	61.3	—	—	97.4
4月末	15,286	52.9	57.8	—	—	94.9
5月末	15,510	55.1	66.8	—	—	96.6
(期末) 2022年6月15日	16,239	62.4	59.5	—	—	101.2

(注1) 騰落率は期首比。
(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
(注3) 先物比率は買建比率－売建比率です。
(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

設定時：10,000円 期末：16,239円 騰落率：62.4%

【基準価額の主な変動要因】

商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行った結果、商品市況の上昇などを受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

◆投資環境について

○商品市況

商品市況は上昇しました。

商品市況は、当作成期首から2021年10月にかけて、OPEC（石油輸出機構）加盟国による協調減産縮小方針の維持、工業用金属や農産物の供給懸念から上昇したものの、その後は、南アフリカでのオミクロン株の発見および他地域での感染確認などを受けた経済活動の減速懸念から下落しました。しかし12月に入ると、オミクロン株の重症化リスクは低いとの見方から過度な警戒感が後退したことで商品市況も反発し、2022年1月以降もウクライナ情勢をめぐる緊張感の高まりなどから続伸しました。3月に入ると、米国および英国がロシア産原油の禁輸措置を発表したことなどからエネルギーセクターを中心に急騰したのち、OPECの増産観測などから上昇幅を縮小する値動きの荒い展開となりました。その後も、不調なロシア・ウクライナ間の停戦交渉や、欧州でのロシア産原油の禁輸措置の広がりなどにより、エネルギーセクターは上昇しました。そのほか、ウクライナが主要産地である小麦等の農産物は需給ひっ迫が懸念され、上昇率が顕著となりました。

○為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首よりおおむねレンジ内での推移が続きましたが、米国の利上げ回数の増加観測などを受けて上昇しました。2022年に入ってから、レンジ内での推移が続いた後、3月にFRB（米国連邦準備制度理事会）が政策金利見通しを大幅に引き上げたのに対し、日銀は指値オペを行い長期金利上昇の抑制を図るなど、日米の金融政策の相違がより明確となって、円安米ドル高が大きく進行了。4月に入ってから、米国金利が上昇したことなどから、米ドルはさらに上昇しました。

○米国短期金融市況

米国の短期国債利回りはプラス圏で推移しました。

◆ポートフォリオについて

主に商品先物取引に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

引き続き、主に商品先物取引等に投資し、世界のコモディティ価格の中長期的な上昇を享受することをめざして運用を行います。

■ 1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (先物・オプション)	13円 (13)
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用) (その他)	4 (2) (2)
合 計	17

(注 1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注 2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況

公 社 債

(2021年 9 月 17 日から 2022 年 6 月 15 日まで)

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	国債証券	千アメリカ・ドル 2,090	千アメリカ・ドル — (600)

(注 1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注 2) () 内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注 3) 単位未満は切捨て。

■ 先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引・残高状況

(2021年 9 月 17 日から 2022 年 6 月 15 日まで)

銘 柄 別			買 建		売 建			当 作 成 期 末 評 価 額		
			新 規 買付額	決 済 額	新 規 売付額	決 済 額		買建額	売建額	評価損益
外 商 国 品			百万円	百万円	百万円	百万円		百万円	百万円	百万円
		NY HARB ULSD (アメリカ)	60	45	—	—		24	—	0
		GASOLINE RBOB (アメリカ)	175	143	—	—		43	—	△ 2
		SOYBEAN OIL (アメリカ)	130	104	—	—		36	—	△ 1
		COPPER (アメリカ)	232	167	—	—		70	—	△ 3
		BRENT CRUDE (イギリス)	176	194	—	—		—	—	—
		COTTON NO. 2 (アメリカ)	79	53	—	—		32	—	△ 0
		SUGAR NO. 11 (アメリカ)	38	40	—	—		—	—	—
		LEAN HOGS (アメリカ)	127	99	—	—		33	—	0
		GAS OIL (イギリス)	60	34	—	—		33	—	0
		E-MICRO GOLD (アメリカ)	207	215	—	—		—	—	—
		SILVER (MICRO) (アメリカ)	104	34	—	—		68	—	△ 2
		WTICRUDEOIL (MINI) (アメリカ)	124	134	—	—		—	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

公 社 債

(2021年 9 月 17 日から 2022 年 6 月 15 日まで)

当 期			期 末		
買 付			売 付		
銘 柄	金 額		銘 柄	金 額	
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2022/12/1	千円 106,144				
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2023/5/18	37,758				
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2021/12/2	33,573				
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2022/3/3	33,570				
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2022/9/8	33,556				

(注 1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注 2) 単位未満は切捨て。

■ 組入資産明細表

(1) 外国（外貨建）公社債（通貨別）

作 成 期	当 期				期 末			
区 分	額 面 金 額	評 価 額		組入比率	うち B B 格 以下組入 率	残存期間別組入比率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
アメリカ	千アメリカ・ドル 1,500	千アメリカ・ドル 1,492	千円 201,531	% 59.5	% —	% —	% —	% 59.5

(注 1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注 2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注 3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注 4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2)外国（外貨建）公社債（銘柄別）

区 分		銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償還年月日
						外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
アメリカ		U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	千アメリカ・ドル 300	千アメリカ・ドル 299	千円 40,497	2022/09/08
		U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	900	898	121,243	2022/12/01
		U. S. TREASURY BILL	国債証券	—	300	294	39,790	2023/05/18
合 計	銘柄数	3銘柄						
	金 額				1,500	1,492	201,531	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年6月15日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 201,531	% 57.6
コール・ローン等、その他	148,187	42.4
投資信託財産総額	349,719	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。
(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
なお、6月15日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝135.01円で
す。
(注3) 当期末における外貨建純資産（338,419千円）の投資信託財産総額（349,719千円）に対する比率は、96.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年6月15日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	388,842,985円
コール・ローン等	50,937,677
公社債（評価額）	201,531,770
差入委託証拠金	136,373,538
(B) 負債	50,243,714
未払金	9,734,774
差入委託証拠金代用有価証券	40,503,000
その他未払費用	5,940
(C) 純資産総額（A－B）	338,599,271
元本	208,510,656
次期繰越損益金	130,088,615
(D) 受益権総口数	208,510,656口
1万口当り基準価額（C／D）	16,239円

* 期首における元本額は99,500,000円、当作成期間中における追加設定元本額は119,150,867円、同解約元本額は10,140,211円です。
* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：
ダイワ厳選コモディティ・ファンド（ダイワ投資一任専用） 208,510,656円
* 当期末の計算口数当りの純資産額は16,239円です。

■損益の状況

当期 自2021年9月17日 至2022年6月15日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	246,518円
受取利息	248,741
支払利息	△ 2,223
(B) 有価証券売買損益	38,060,480
売買益	38,060,480
(C) 先物取引等損益	58,460,406
取引益	104,794,191
取引損	△ 46,333,785
(D) その他費用	△ 58,133
(E) 当期損益金（A＋B＋C＋D）	96,709,271
(F) 解約差損益金	△ 4,469,789
(G) 追加信託差損益金	37,849,133
(H) 合計（E＋F＋G）	130,088,615
次期繰越損益金（H）	130,088,615

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。